

キャラクター名
ふうま小太郎

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	何でも屋	カヴァー	高校生
	パロール					
オプション	年齢		17	性別		男
覚醒	死	衝動	加虐	初期侵食率		35 %
出自	経験		邂逅			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	1	0			1	行動値	12
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	12
精神	5	0	0			5	戦闘移動	17
社会	2	0	0			2	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1	1	調達	7	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
起源種	P	N		
秋川やよい	P 信頼	N		
鹿之助	P 友情	N		
夢守夕希	P 友情	N		
直枝理樹	P 友情	N		
レン	P 信頼	N 恐怖		
りょうこ	P 庇護	N 不安		

最大財産P: 18 残り財産P: 12

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
戦術	6	6	セット		シーン選択			
効果: 判定D+LV 自分不可								
アドヴァイス	1	4	メジャー		単体	交渉		
効果: 判定D+LV C-1 (6)								
弱点看破	3	4	メジャー		単体	交渉		
効果: R中 攻撃+Lv*3								
知将の眼力	3	4	メジャー		単体		リミット	
効果: 組み合わせたエフェクトのLv+1								
神機妙算	1	3	メジャー		範囲選択		80	
効果: 範囲化								
灰色の脳細胞	1	2	常時					
効果: 行動値+精神								
ブービートラップ	3	3	オート					
効果: R中 同エンゲージに入った対象のダイスを-Lv+2個減らす								
紬の魔眼	3	1	オート					
効果: 判定D+Lv								
孤独の魔眼	3	4	オート					
効果:								
セットバック	1	2	オート					
効果: BS回復								
嗜虐の弁術	5	5	イニシ		範囲選択		120	
効果: R中対象の攻撃力-Lv*3 行動値-5								
プロファイリング	★							
効果:								
煽動家	★							
効果:								

UGNが運営するチルドレン養成機関「五車学園」に通う学生。
 ファルスハーツの一角ふうま一門を支配する頭目衆“ふうま八将”筆頭であり、ふうま宗家の現当主。
 「小太郎」の名は本名ではなく、当主が代々継承する名である。
 父がファルスハーツと対立しコールドウェルらに敗れ死亡。
 UGNに部下とともに亡命し以後はふうま時子がふうま宗家の後見人となり、彼女に引き取られ育てられている。

小太郎の名は本名ではないこともあってか、親しい人間は大体「ふうま」と苗字で呼ぶ。
 ふうま宗家に仕える身でも「お館様」と呼んでいるのは現状時子のみ。災禍は「若様」、天音は「若」と呼んでいる。

戦闘力はオーヴァードとしては下位だが人を扱うことがうまく指揮官として優秀な人材。

身長は177cmあり、筋肉質。右目は生来閉じられたままで見えていない。年齢は17歳。
 回想シーンなどではメカクレ系主人公のように見えるが、実際は前髪が長いだけで両目とも隠れていない。右目側は常に閉じられているために瞳が見えず、そういった印象を受けやすいのかもしれない。

ふうまの血統は多くの邪眼使いを輩出しているのだが、主人公は邪眼はおろか他の忍法にも目覚めていない。そのためもあり一門の者たちに「当主失格の目抜け」と侮辱されている。
 が、当の本人はそんな評価もどこ吹く風。刺と自由に昼行燈に生きている。学園でも授業をサボっては木陰で趣味の古書の読書を満喫している模様。

腹違いの姉であり育ての親である時子に関しては一切頭が上がらず、彼女を怒らせることを何よりも恐れている。幼少時は時子から隠れるために度々災禍が管理する蔵書庫に逃げ込んでいた。古書を読み漁る趣味はここから生まれたのかもしれない。
 なお時子は後見人であるため、財布の紐はガッチリ時子が握っている。